

岡山県の地震

令和2年(2020年)9月

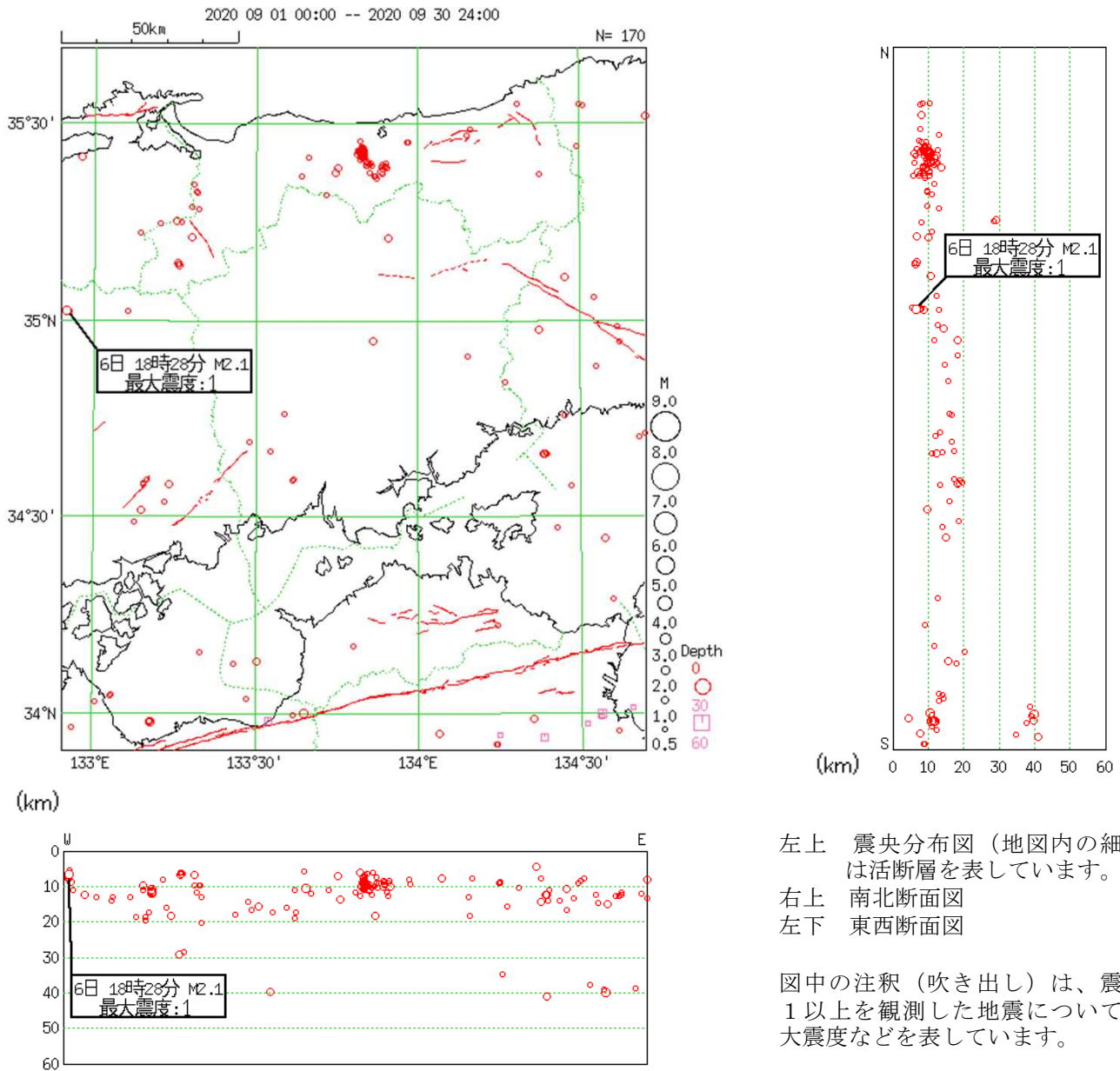
目 次

○岡山県及びその周辺の地震活動（9月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 該当なし
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 該当なし
○地震防災メモ No.177	
南海トラフ地震について（その2）	… 2

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山県及びその周辺の地震活動(9月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図（地図内の細線は活断層を表しています。）

右上 南北断面図

左下 東西断面図

図中の注釈（吹き出し）は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

9月の概況

- ・上図の範囲内で9月に震度1以上の揺れが観測された地震は1回（前月：6回）でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は9月中に0回（前月：1回）でした。

南海トラフ地震について(その2)

南海トラフ地震について>

南海トラフ地震^{*1}として、マグニチュード8～9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率が70～80%（令和2年1月1日現在）とされており、大規模地震発生の切迫性が指摘されています。

その地震が発生する場合、想定震源域の全領域がずれ動いて、必ず最大クラスの地震になるというわけではありません。過去の発生事例をみると、広範囲の震源域がずれ動く場合でも、東側の一部が破壊されずに残ったり、西側の一部が残ったりすることがありました。また、1944年の昭和東南海地震と46年の南海地震のように、東側の大きな領域が先に破壊され、時間差をおいて西側の大きな領域が破壊されるような場合もありました。震源域の広い地震については、いろいろな発生パターンが考えられます。

その一方で、2011年の東北地方太平洋沖地震を教訓に、安全サイドに立った考え方で、最大クラスの地震・津波を想定した防災対策や対応の取組が進められています。

南海トラフ巨大地震への備え>

基本として、地震が突然発生しても被害を軽減できるよう、普段からできる備えを進めておくことが重要です。身の回りで発生すると考えられる危険性に対して、備えをすることになります。地方公共団体や公共機関、企業での備えもありますが、地域や住民一人ひとりの備えもあります。具体的には、建物の耐震性を高める、物が落ちたり・倒れたり・ぶつかってきたりしないように耐震固定する、安全スペースを確保する……などがあります。また、避難先・避難経路を確認する、緊急時の連絡手段の確認・確保をする、非常持出品の準備・点検することなども大切です。

そうしたことに加えて、南海トラフ地震の想定震源域内で規模の大きな地震が発生するなどして「地震発生の可能性が平常より高まった」場合に、「南海トラフ地震に関する情報」を発表して、適切な防災対応行動がとれるようにする仕組みがあります。

南海トラフ地震に関する情報>

南海トラフ地震に関する情報^{*2}としては、次の2種類があります。

「南海トラフ地震臨時情報」

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、大規模地震と関連するか調査を開始した場合や調査結果を発表する場合に発表する。

「南海トラフ地震関連解説情報」

調査結果発表後の状況推移等を発表する場合や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」定例会合の調査結果を発表する場合に発表する。

なお、情報を受けた時に対応をとりやすくするため、「南海トラフ地震臨時情報」には、（調査中）、（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）、（調査終了）のキーワードを付して発表することになっています。各キーワードを付す条件は、以下のとおりです。

（調査中）：監視領域内でマグニチュード6.8以上の地震が発生するか、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測するか、その他に南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測した場合。

（巨大地震警戒）：想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合。

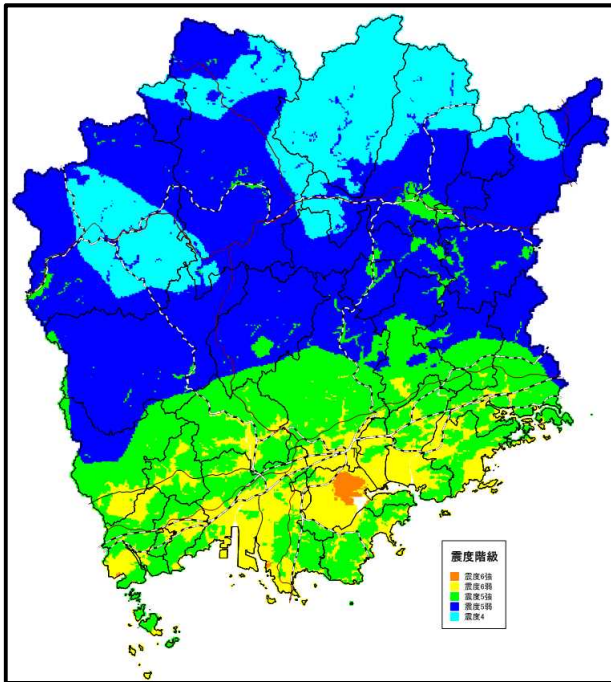
（巨大地震注意）：監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合

（調査終了）：（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

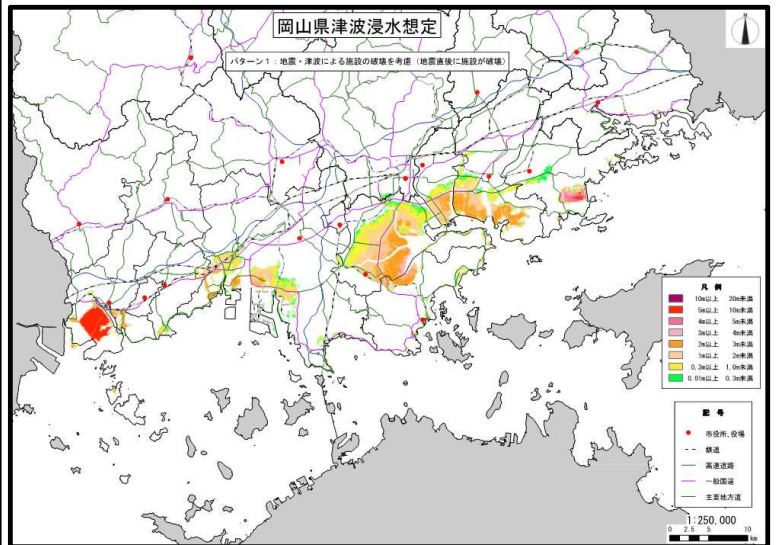
南海トラフ巨大地震で想定される震度や津波>

最大クラスの地震に対して、中央防災会議が想定した内容については、前回の地震防災メモでお伝えしました。

最大クラスの地震に対する、地元のより詳細な被害想定※³については、岡山県から公表された資料があります。震度は、最大で6強と想定される地域があり、県南部を中心に広い範囲が震度6弱と震度5強になっています。県北部には震度4のエリアもありますが、震度5弱と想定される地域が広く、一部に震度5強の地域を含んでいます。液状化の危険度については、県南部を中心に「危険度が極めて高い」地域や「危険度が高い」地域がかなり広がっています。地震動により堤防等が破壊されて津波が浸水する場合の想定では、5mを超えるところがあり、1m以上と想定される地域もかなりの範囲に広がっています。



南海トラフ巨大地震による震度分布図
(岡山県HP:「震度分布図【岡山県想定】」より)



岡山県津波浸水想定

[地震により堤防等が破壊される場合]
(岡山県HP:「津波浸水想定図 全体図」より)

最大クラスの地震として非常に広い震源域で岩盤がずれ動いた場合は、地殻変動（海底の沈降・上昇）が四国の瀬戸内海沿岸等に達することが考えられ、そこを波源として津波が広がると、岡山県沿岸には地震発生から数十分程度で津波が到達※⁴すると考えられます。

東北地方太平洋沖地震では、津波により多数の犠牲者を生じたことから、津波警報等の内容や伝え方について検討を行い、危機感を伝えて避難行動に結びつけることができるよう、改善を図っています。具体的には、海域でマグニチュード8を超える巨大な地震が発生した場合（津波警報等の発表は地震発生から3分程度を目途にしていますが、それまでに精度のよい地震の規模を求めることは技術的に困難です）、気象庁は、その海域における最大の津波想定等をもとに津波警報・注意報を発表します。そのため、南海トラフ地震の想定震源域内でマグニチュード8を超える巨大地震が発生した場合、岡山県の津波予報区に対して、「高い」という表現の津波警報を発表し、津波到達予想時間は数十分程度という内容の津波情報を発表することになっています。

詳しくは、以下のリンク先を参照願います。

- ※1 南海トラフ地震 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq.html>
- ※2 南海トラフ地震に関する情報
https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html
- ※3 岡山県の被害想定 <https://www.pref.okayama.jp/page/417672.html>
- ※4 大阪管区気象台特設ページ：南海トラフ巨大地震から命を守るためのポイント
<https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/index.html>